

－ 変革期の私学教育の展望 －

東京私立中学高等学校協会

202 官公私立東京諸學校一覽（明治22年）

1、社会の未来 & 子供の未来

2、子供の課題 & 教育の課題

3、教育課題の一斉改革開始

4、建学精神が私学の魅力に

グローバル化 & イノベーション

1868



1945

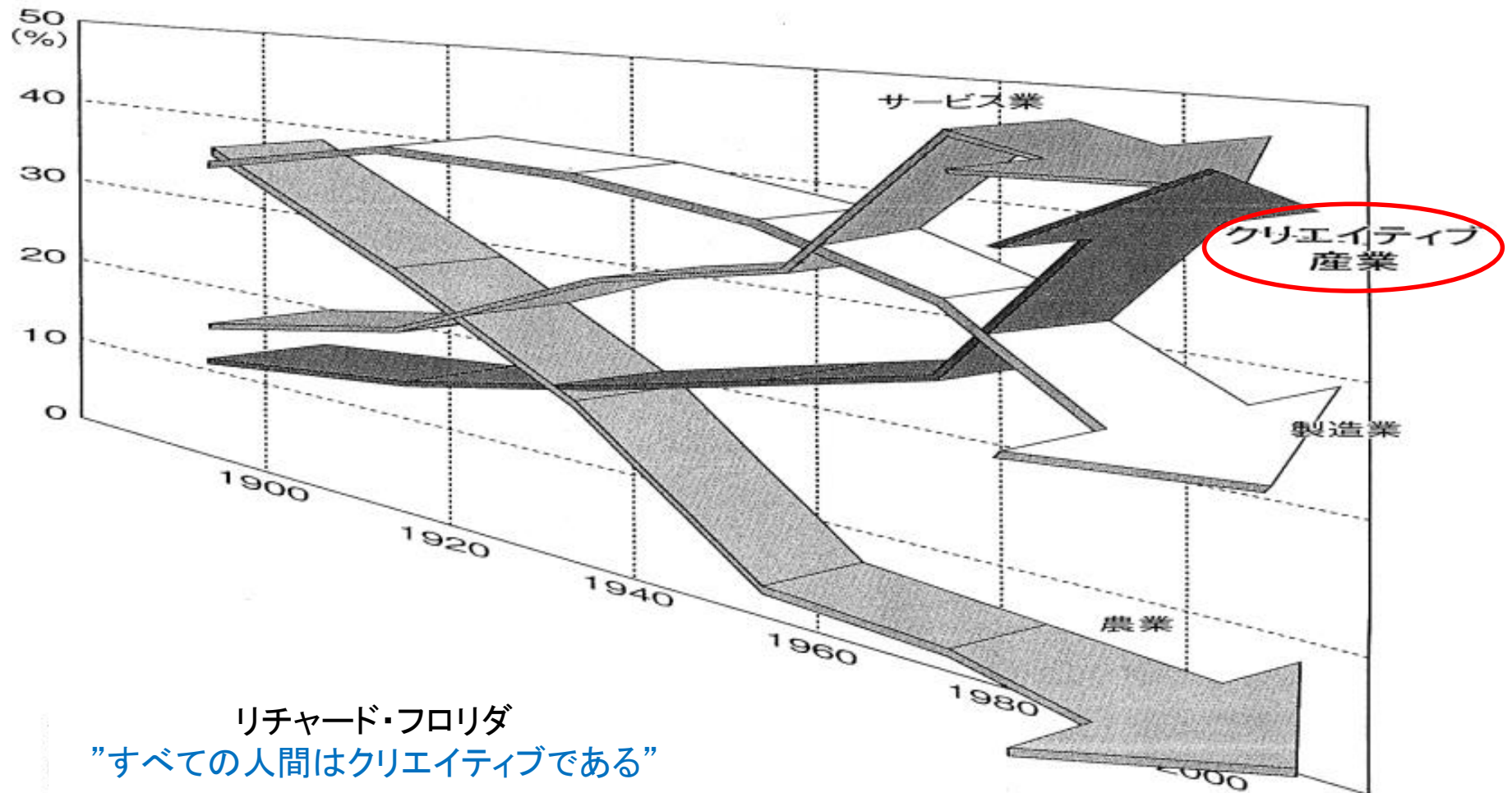


2018



クリエイティブ・クラスの時代

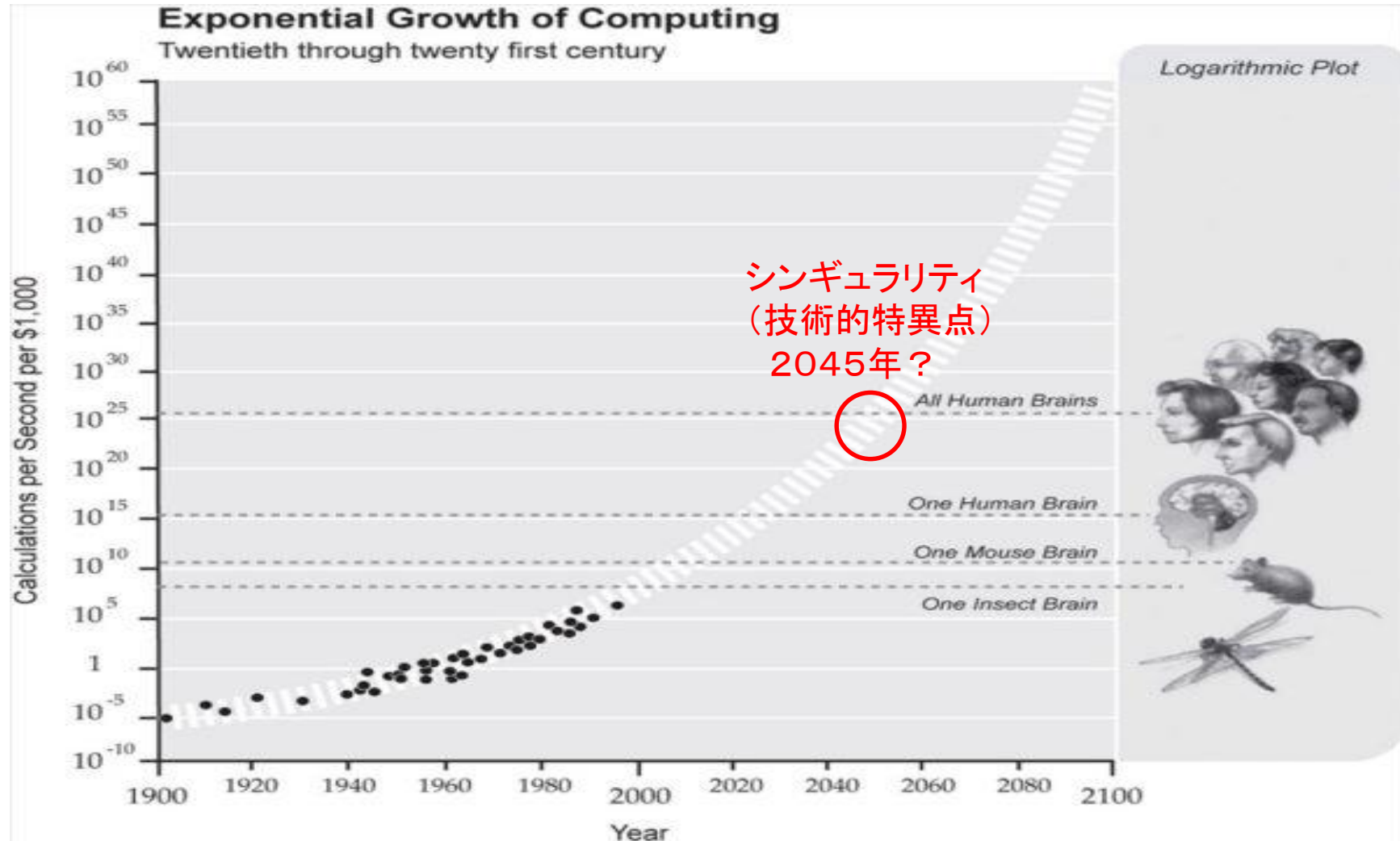
20世紀におけるアメリカのクリエイティブ産業の成長(対労働人口比)



リチャード・フロリダ
”すべての人間はクリエイティブである”

【出典】Richard Florida, *The Rise of the Creative Class*, New York: Basic Books, 2002を修正。

AI(人工知能)の進展の予測



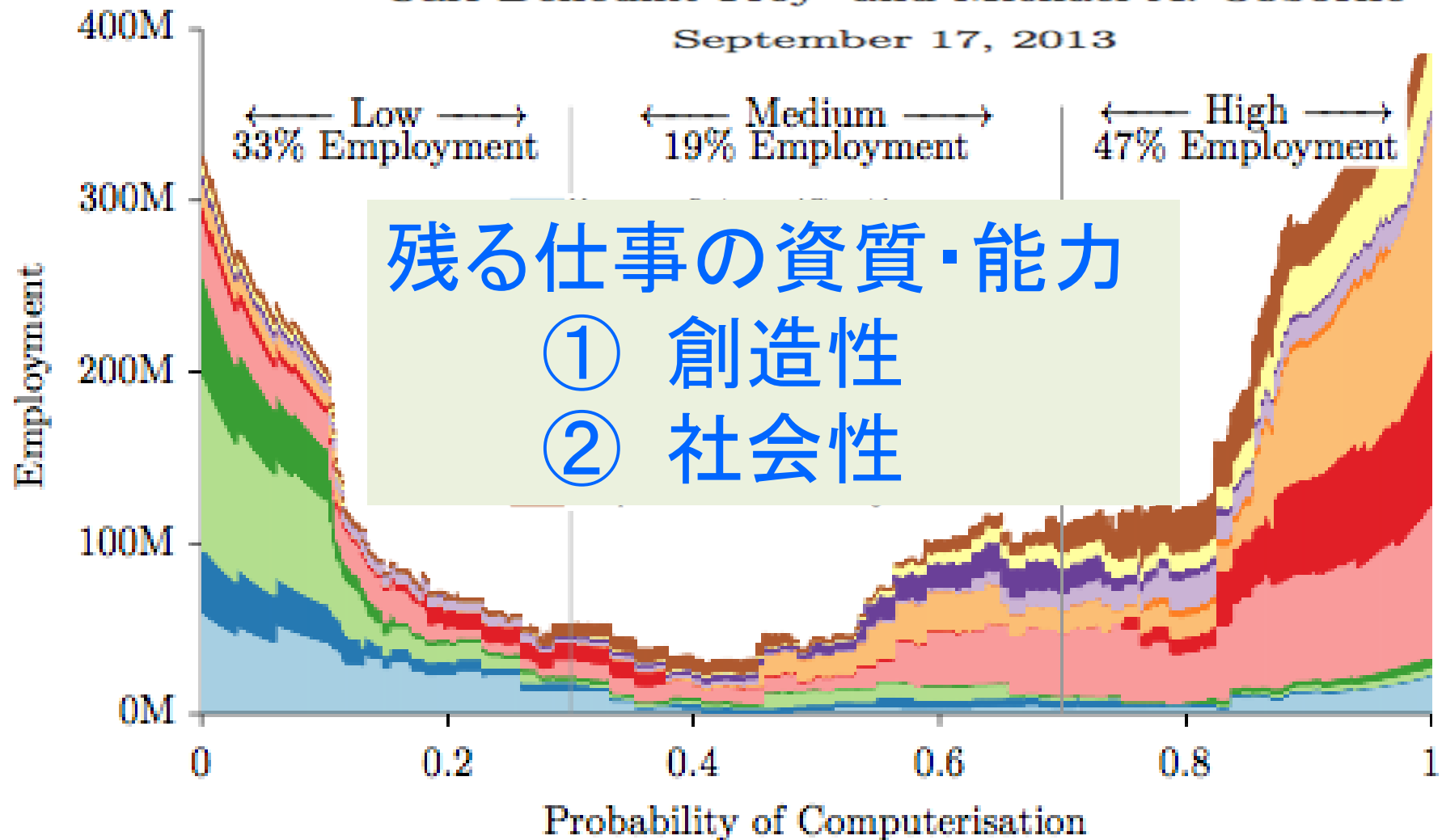
ゴードン・ムーア「ムーアの法則」 / レイ・カーツワイル「シンギュラリティ」

AI時代に消える・残る仕事



Carl Benedikt Frey[†] and Michael A. Osborne[‡]

September 17, 2013



子供たちの未来

- 子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く。

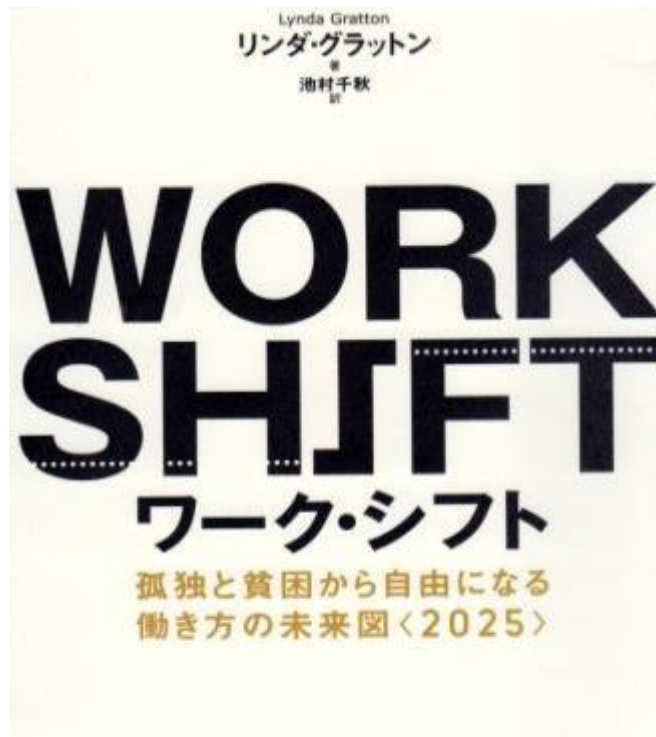
(キャシーデビッドソン氏 ニューヨーク市立大学大学院教授)

- 今後10年～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い。

(マイケル・オズボーン氏 オックスフォード大学準教授)

- 2007年に日本に生まれた子供は、107歳まで生きる確率が50%ある。

(リンダ・グラットン氏 ロンドン・ビジネススクール教授)



～2025年の未来に、充実した仕事をするためには～

- ① 高度な専門知識と技能を習得し続けること
- ② 友人関係や人脈などの人間関係を育むこと
- ③ 創造的に何かを生み出し、質の高い働き方をする事

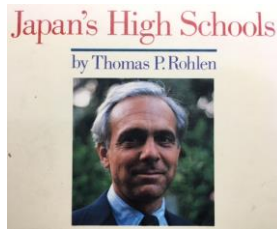
1、社会の未来 & 子供の未来

2、子供の課題 & 教育の課題

3、教育課題の一斉改革開始

4、建学精神が私学の魅力に

トーマス・ローレン『日本の高校』の序文より



～その成功と代償～

Thomas P. Rohlen (スタンフォード大学教授・文化人類学者)
1974～1975(昭和49～50)フィールド調査:5つの典型的高校
1988(昭和63年)日本語版出版(サイマル出版会)

今日の教育がかかえている課題は、日米両国ともに大きい。新しい技術が急激に発展するなかで、より高度な科学やコミュニケーションの水準に合わせて、教育制度を改革していかななくてはならない。確かにそれは、あらゆる国家に共通する国際的な課題だといえる。だが、われわれの教育制度は、その課題の本当の意味を理解して課題解決に取り組んでいるとはいえない。...

日米両国がかかえているジレンマは、学校教育が、ますます技術革新や国際競争というせちがらい目的に適合していくなかで、いかにして人間の心や魂を豊かにし、伝統文化を豊富にしていくかということである。このような視点から見ると、日本は、バランスがとれているとはとてもいえない。アメリカも...

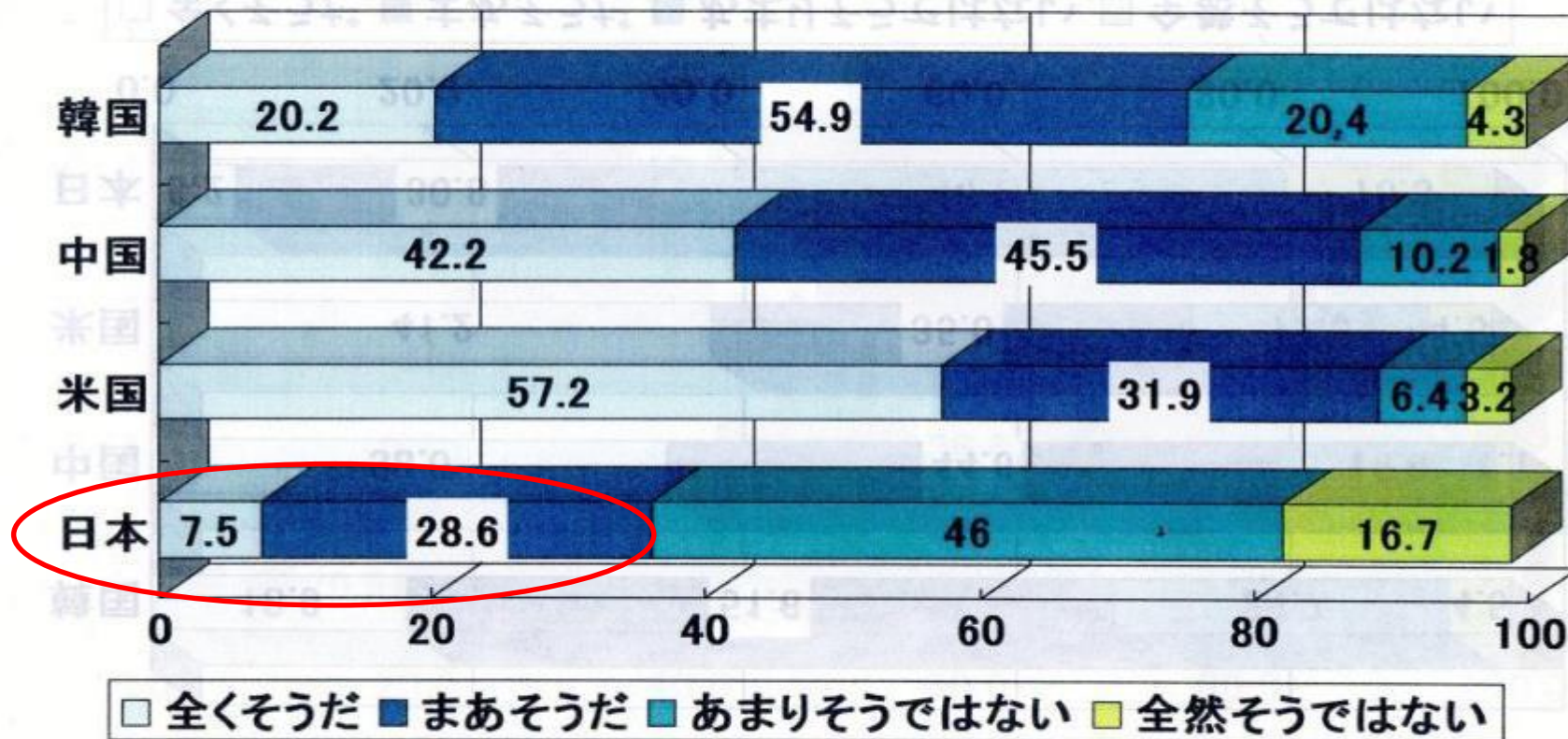
今日の学校教育には、いったい何が求められているのだろうか。私の考えでは、「学ぶ」ということを教育の中心にすべきだ、ということである。つまり、音楽であれ、幾何であれ、あるいは生徒自身がかかえている問題を解決することであれ、多様な学習の技能と喜びを生徒に教えることである。

私が日本の高校を見て感じるのは、受験制度という重圧のもとで、この点に大きな歪みが生じているということだ。小学校の時点では、生徒たちは世の中についての学習の仕方や問題の解決法を身につけており、この方面で実に見事な成果をあげている。ところが中学校から高等学校にかけて、次第に学習の楽しみや方法が軽視され、教科の内容そのものに関心が限定されるようになっていく。そして、高校の卒業が近づくにつれて、創造的な思考や表現の機会がますます減少し、生徒一人ひとりの異常性が目につくようになる。

最後に、私は高等教育についてはまったく述べていないが、日本で最も改革を必要としているのは高等教育である。大学が柔軟で進取の精神に富み、人間味にあふれている場合にのみ、入試制度の改革が可能となるのであり、ひいては高校のカリキュラム改革が可能となるのである。

高校生の自己肯定感

「私は価値ある人間だと思う！」

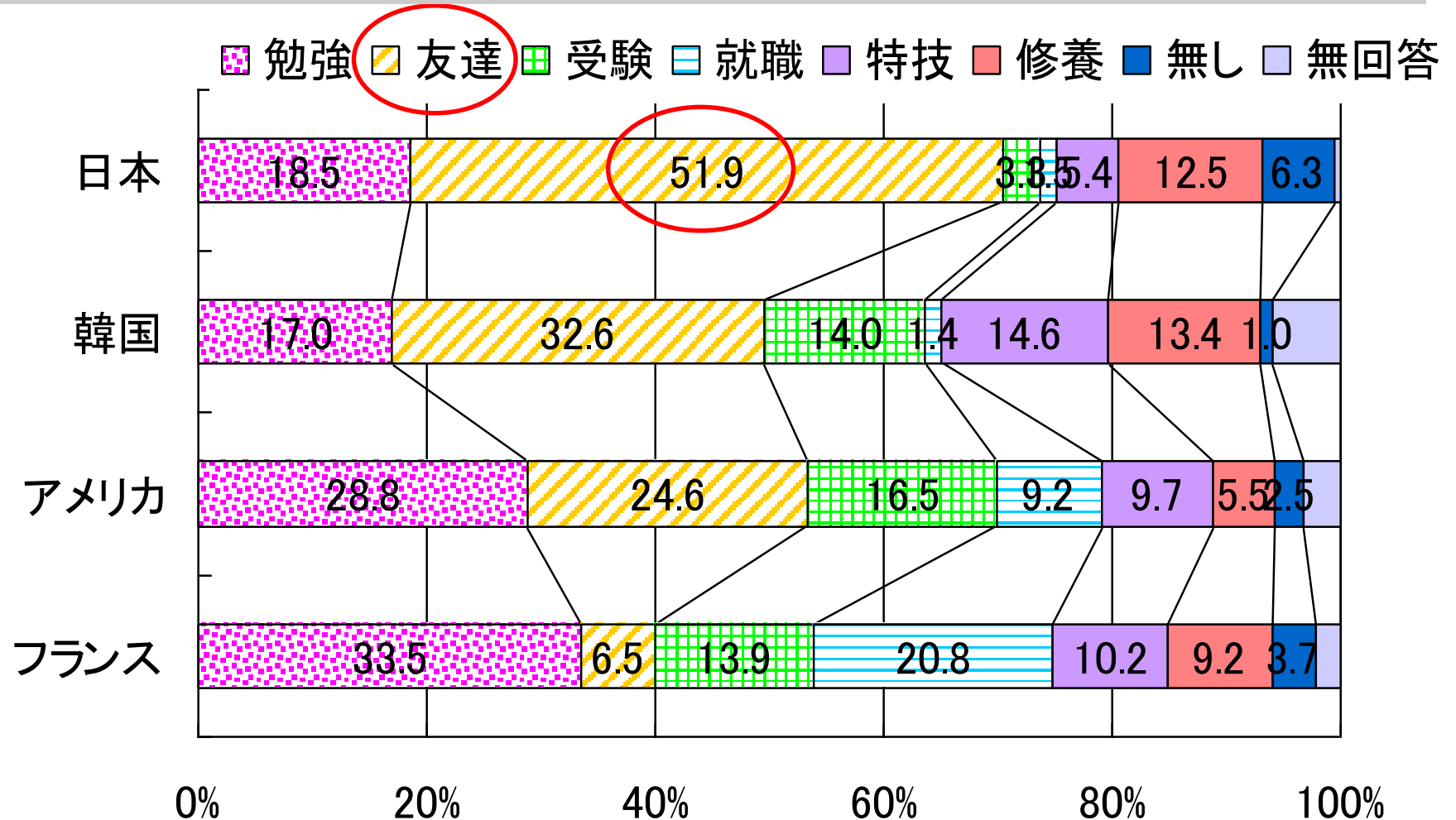


(出典)「高校生の心と体の健康に関する調査(2011年3月)」

財団法人 一ツ橋文芸教育振興協会、財団法人 日本青少年研究所

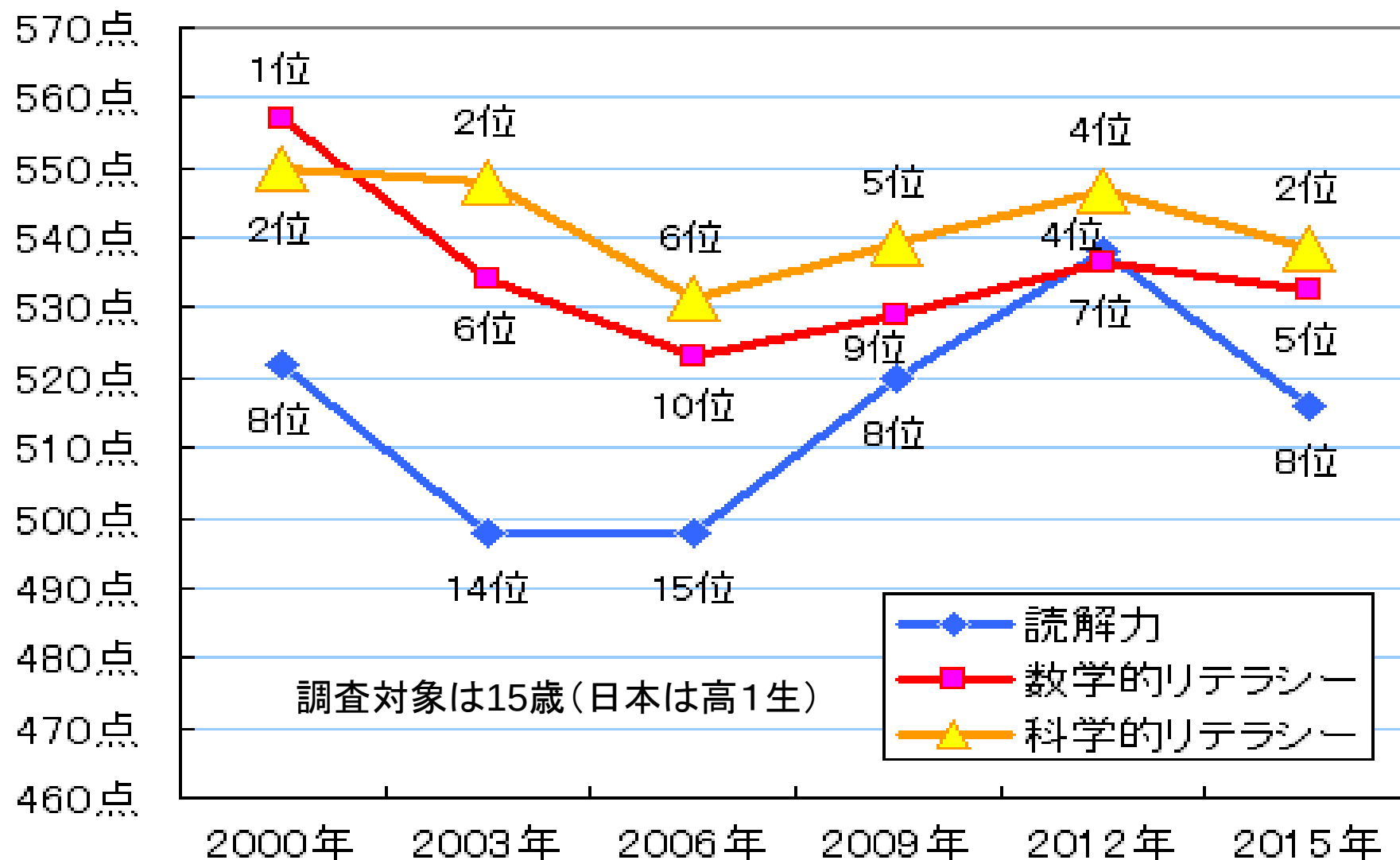
高校生の学校生活意識

「重要だと思うことは？」



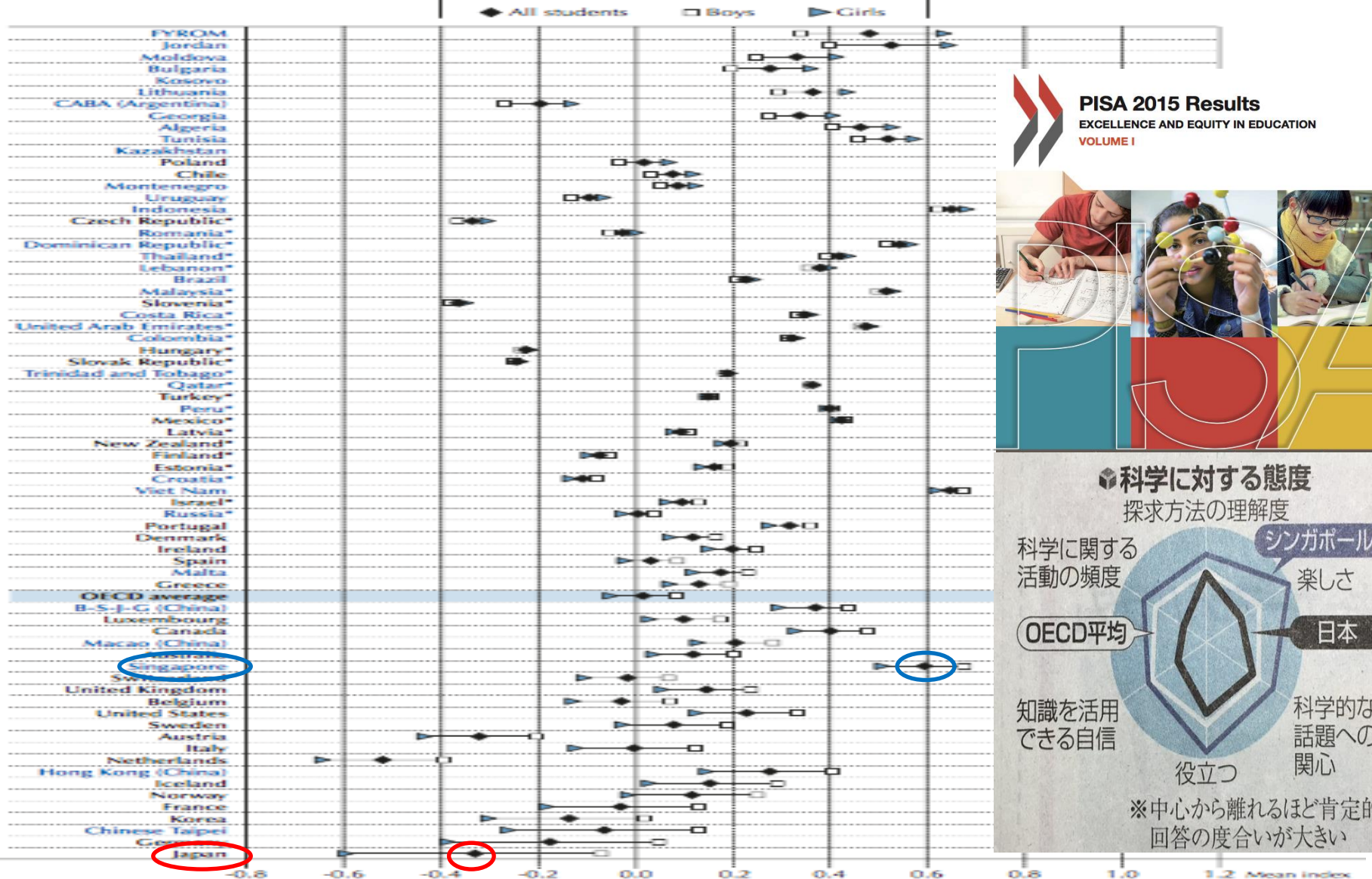
日本青少年研究所「新千年生活と意識に関する調査」(2001年)

PISA国際学力テスト・日本の結果推移



PISAテストでの日本の課題

Figure I.3.11 ■ Gender differences in students' enjoyment of learning science



PISA 2015 Results
EXCELLENCE AND EQUITY IN EDUCATION
VOLUME I



科学に対する態度

探究方法の理解度

科学に関する
活動の頻度

OECD平均

知識を活用
できる自信

シンガポール
楽しさ

日本

科学的な
話題への
関心

役立つ

※中心から離れるほど肯定的な
回答の度合いが大きい

Universities

2012

• Oxford	12 th C	48
• Cambridge	13 th C	88
• Univ. Paris	13 th C	47
• Heidelberg	14 th C	54
• Harvard	1636	46
• Yale	1701	49
• U. Pennsylvania	1740	28
• Princeton	1746	35
• Columbia	1754	80
• MIT	1861	77
• U. Tokyo	1876	8
• Stanford	1891	54



米国大学における出願書類



© Kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

生徒が入力するもの

- プロフィール(Profile)
- 家族情報(Family)
- 学業成績、受賞歴(Education)
- テストスコア(Testing)
- 課外活動歴(Activities) など
- パーソナル・エッセイ(Writing)

高校教員が入力・作成するもの

- | | |
|-----|---|
| SR | ●成績証明書(Transcript)
●学校紹介(School Profile) |
| CR | ●推薦状 |
| TE① | ●推薦状 |
| TE② | ●推薦状 |

○ **筆記試験の得点で合否を決定する方法は用いません** → 高等学校で得られる機会には大変大きな差があるからです。全員が同じ試験を受ける場合、教材の半分しか学習していない学生がいて試験の得点が低くても、教材をすべて学んでいるが創造性が低く、異なる領域を統合することができない学生より将来有望である可能性があります。我が校にとって優れた学生を真に選び出すような試験は存在しません。

＜ハーバード大学・アドミッションオフィス＞

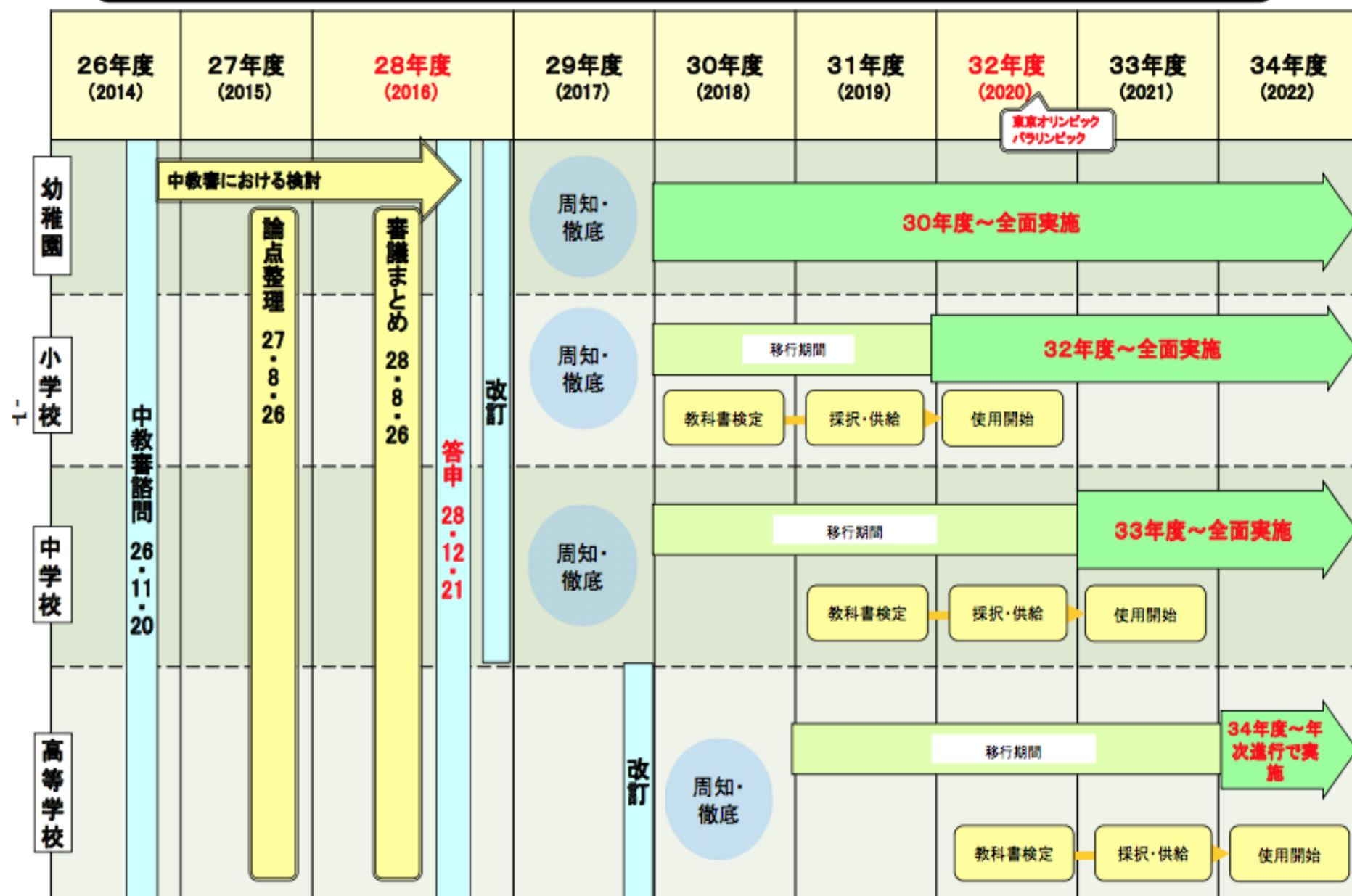
1、社会の未来 & 子供の未来

2、子供の課題 & 教育の課題

3、教育課題の一斉改革開始

4、建学精神が私学の魅力に

今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール（現時点の進捗を元にしたイメージ）



「高大接続改革」

学力の3要素を多面的に評価する

大学入試

三位一体改革

学力の3要素を育成する

高校教育

高校までに培った力を更に向上・
発展させ、社会に送り出すための

大学教育

学力3要素（改正学校教育法第30条第2項）

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な**知識及び技能**を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な**思考力**、**判断力**、**表現力**その他の能力をはぐくみ、**主体的に学習**に取り組む**態度**を養うことに、特に意を用いなければならない。

新学習指導要領の概要

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び



「主体性評価」の位置付け変化



学習指導要領による教育理念の変遷

(昭和22) (昭和26) (昭和33) (昭和43) (昭和52) (平成元) (平成14) (平成23)

ゆとり

見る・聞く・話す
中心の経験主義

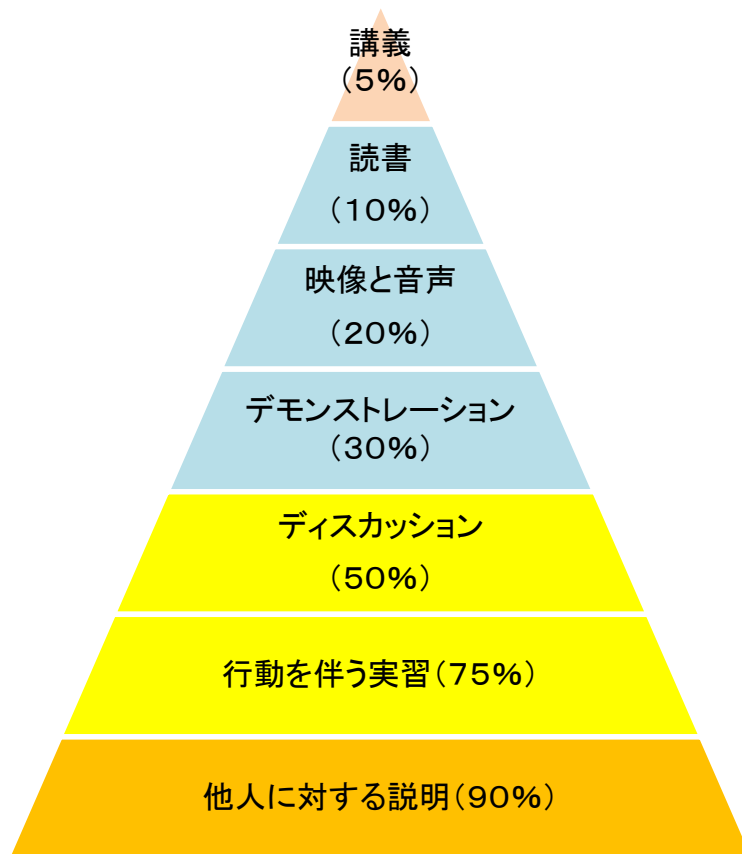
資質・能力
コンピテンシー

読む・書く・計算
中心の系統主義

つめこみ

アクティブラーニング（能動的学習）

Learning Pyramid
(学習定着率)



National Training Laboratories

学びのイノベーション

Passive (受動的)

Active (能動的)

Homogeneity (同質性)

Diversity (多様性)

Competitive (競争的)

Collaborative (協働的)

Instructive (指導的)

Interactive (双方向的)

Repetitive (反復的)

Creative (創造的)

深い学び VS 浅い学び

学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴

深いアプローチ

- これまで持っていた知識や経験に考えを関連づけること
- パターンや重要な原理を探ること
- 根拠を持ち、それを結論に関連づけること
- 論理や議論を注意深く、批判的に検討すること
- 学びながら成長していることを自覚的に理解すること
- コース内容に積極的に関心を持つこと

浅いアプローチ

- コースを知識と関連づけないこと
- 事実を棒暗記し、手続きをただ実行すること
- 新しい考えが示されるときに意味を理解するのに困難を覚えること
- コースか課題のいずれにも価値や意味をほとんど求めないこと
- 目的や戦略を反映させずに勉強すること
- 過度のプレッシャーを感じ、学習について心配すること

活動の「動詞」から見る学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴

学習活動	深い アプローチ	浅い アプローチ
●振り返る ●離れた問題に適用する ●仮説を立てる ●原理と関連づける ●身近な問題に適用する ●説明する ●論じる ●関連づける ●中心となる考えを理解する ●記述する ●言い換える ●文章を理解する ●認める・名前をあげる ●記憶する		

Entwistle, McCune, & Walker (2010), table 5.2 (p. 109) の一部を翻訳

Biggs & Tang (2011), Figure 2.1 (p. 29) の一部を翻訳・作成

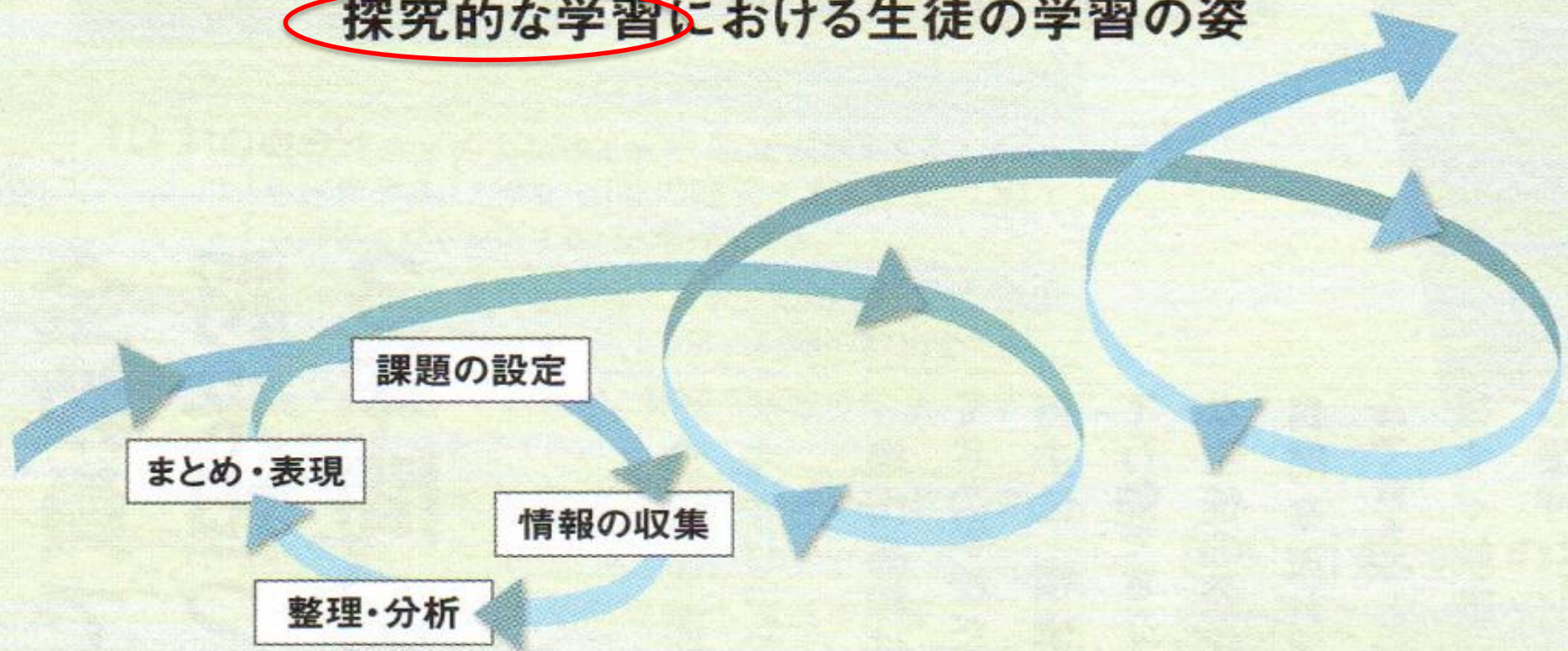
1、社会の未来 & 子供の未来

2、子供の課題 & 教育の課題

3、教育課題の一斉改革開始

4、建学精神が私学の魅力に

探究的な学習における生徒の学習の姿



■日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。

■探究の過程を経由する。

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

■自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

オーストラリア・ブリスベーンの高校における 教科授業のassignments(研究課題)

- ・ ビジネス(科目)の課題
「インドにIKEAを建設するにあたって、何が重要か」
- ・ 経済の課題
「ある家族の一番希望に合う家を、経済的な視点から調査、分析する」
- ・ 生物の課題
「大腸菌を殺菌するのに、どの物質が一番効率がよいかについて根拠を示して論じる」
- ・ 英語(日本の国語)の課題
「Jasper Jonesという400頁ある本を読んで、物語の内容を変えず、空間を見つけて自分の物語を加え、小説をもっと面白くする」



多様な評価方法の例

児童生徒の学びの深まりを把握するために、多様な評価方法の研究や取組が行われている。

「パフォーマンス評価」

知識やスキルを使いこなす(活用・応用・統合する)ことを求めるような評価方法。
論説文やレポート、展示物といった完成作品(プロダクト)や、スピーチやプレゼンテーション、協同での問題解決、実験の実施といった実演(狭義のパフォーマンス)を評価する。

「ルーブリック」

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語(評価規準)からなる評価基準表。

尺度 項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
項目	…できる …している	…できる …している	…できる …している	…できない …していない

記述語

ルーブリックのイメージ例

「ポートフォリオ評価」

児童生徒の学習の過程や成果などの記録や作品を計画的にファイル等に集積。
そのファイル等を活用して児童生徒の学習状況を把握するとともに、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を示す。

育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容
と評価の在り方に関する検討会(第8回)
平成25年8月30日配付資料を一部改訂
(西岡加名恵委員)

パフォーマンス評価

知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを
求めるような評価方法(問題や課題)の総称。多くの場合、「選択
回答式(客観テスト式)の問題」以外の評価方法を指す。

単純

選択回答式(客観テスト式)の問題

- ・多肢選択問題
- ・正誤問題
- ・順序問題
- ・組み合わせ問題
- ・穴埋め問題(単語・句)

自由記述式の問題

- ～ 短答問題(文章・段落・図表など)
- ・知識を与えて推論させる問題
 - ・作問法
 - ・認知的葛藤法
 - ・予測-観察-説明(POE)法
 - ・概念マップ法
 - ・ベン図法
 - ・運勢ライン法
 - ・描画法

一枚ポートフォリオ評価

活動の断片的な評価

- ・発問への応答
- ・活動の観察

実技テストの項目

- ・検討会、面接、口頭試問
- ・短文の朗読
- ・実験器具の操作
- ・運指練習
- ・運動技能の実演

パフォーマンス課題

- ・エッセイ、小論文、論説文
- ・研究レポート、研究論文
- ・実験レポート、観察記録
- ・物語、脚本、詩、曲、絵画
- ・歴史新聞
- ・朗読、口頭発表、プレゼンテーション
- ・グループでの話し合い、ディベート
- ・実験の計画・実施・報告
- ・演劇、ダンス、曲の演奏、彫刻
- ・スポーツの試合

プロジェクト

複雑

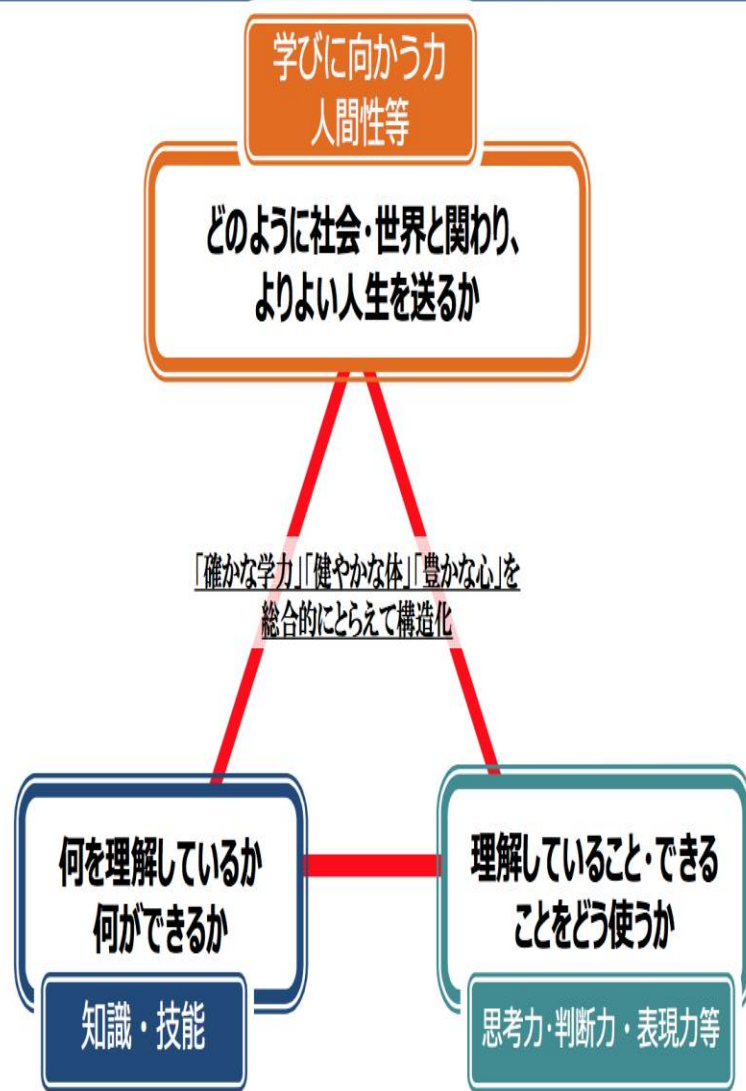
実演

ポートフォリオ評価

学習の過程や成果を示す様々な記録を
系統的に蓄積し、編集したり検討会を
行ったりしながら評価していく方法

筆記

(西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授
価・中学校』学事出版、2009年、p.9の図を一部改訂)



IB learner profile

*IBの理念はグローバルな全人教育で、10の学習者像を目指しています。

1	Inquirers	探究する人
2	Knowledgeable	知識のある人
3	Thinkers	考える人
4	Communicators	コミュニケーションができる人
5	Principled	信念のある人
6	Open-minded	心を開く人
7	Caring	思いやりのある人
8	Risk-takers	挑戦する人
9	Balanced	バランスのとれた人
10	Reflective	振り返りができる人

IBカリキュラムの中心にはTOK、CASがある

高校が掲げる教育目標のカテゴリー

	私立高校		公立高校	
1	心の教育 豊かな心	67.2	自立 自主 主体性	64.6
2	自立 自主 主体性	64.3	心の教育 豊かな心	64.3
3	人間性	64.0	地域 郷土	51.8
4	思いやり	55.6	人間性	49.9
5	社会性 協調性	54.0	健康 体力	48.3
6	国際(社会) グローバル	53.7	社会性 協調性	46.8
7	自ら学ぶ力 自己学習力	52.7	学力向上 学力定着	46.6
8	学力向上 学力定着	51.1	基本的生活習慣	41.2
9	生きる力	50.8	自ら学ぶ力 自己学習力	40.5
10	基本的生活習慣	45.0	創造性 創造力	37.7

出典：ベネッセ教育総合研究所「第6回学習指導基本調査」(2016年)

ルーブリック事例

資質・能力「社会性」 評価項目「あいさつ」

- 1 : 親しい友人や先生から声をかけられても、ほとんど返事ができない。
- 2 : 親しい友人や先生から声をかけられれば、返事ができる。
- 3 : 親しい友人や先生であれば、自分から進んで挨拶ができる。
- 4 : 特に親しくなくとも、級友や先生に対し自分から笑顔で挨拶ができる。
- 5 : 校内であれば、外部からの来訪者にも積極的に笑顔で挨拶できる。

Human Link

Thank you !

